



連合高知

<発行所> 連合高知 No.147
 2024年 5月17日
 日本労働組合総連合会高知県連合会
 <発行責任者>池澤研吉
 〒780-0870 高知市本町4丁目1-32
 こうち勤労センター内
 TEL(088)824-5111
 FAX(088)824-3002
 www.rengo-kochi.jp



第95回メーデー高知県中央大会

賃上げの流れを追い風に！ 変えよう！経済社会と政治

連合高知は4月29日、城西公園において第95回メーデー高知県中央大会を開催した。大会には1,000名(20産別、9団体)が参加し、生活改善や平和と人権の尊重などを社会にアピールした。

開催にあたってあいさつに立った池澤会長は、2024春季生活闘争について「現時点では賃上げの流れが強く維持されている。まだ交渉中の組合は、こうした状況を追い風として最大限の回答を引き出すべく奮闘

第95回メーデー宣言

連合高知は、この第95回メーデー中央大会において人権・労働基本権の確立、世界の恒久平和の希求、労働者の社会的地位の向上を社会に呼びかける。

私たちの喫緊の課題は、能登半島地震被災地への支援と生活困窮者支援を含めた2024春季生活闘争の取り組みである。

1月に起こった能登半島地震によって被災地では多数の犠牲者が出るとともに、今なお8千人を超える方々が避難生活を送っている。また、現地では道路や上下水道施設などインフラの復旧が大きく遅れ、住民は生活に困難をきたしている。そんな中、私たち連合高知は、被災者に寄り添いながらあらゆる支援活動を展開しなければならない。

また、現下の物価高騰は、低所得者層にとっては生存権にかかわる問題になっている。よって、私たちは、いま取り組んでいる2024春季生活闘争において、組織された労働者として全力で闘いながら、すべての労働者・生活者の生活防衛をめざしていく。その際、私たちが掲げる目標は、「物価上昇を超える賃上げ」と「格差是正」、そして、「労務費の価格転嫁をはじめとする分配構造の転換」であることを、改めて確認し合おう。

そのうえで、現在の格差と貧困社会を生み出したのは自民党政権であること。その自民党がいま、「政治とカネ」の問題に問われていることを踏まえて私たちは、経済社会のステージ転換とともに、政治の流れも変えていこうではないか。

一方、世界に目を向けると、収束の兆しが見えないロシア・ウクライナ戦争や、イスラエルとパレスチナの紛争など、まさに世界の労働者・生活者の“生存権が脅かされる状況”が続いている。

したがって、“万国の労働者の命とくらし、雇用、基本的人権を守る”こと、そして“戦争反対”の意をこのメーデーを起点に、社会へ発信していこう。

すべての働く仲間が安心して働き暮らすために、ジェンダー平等の実現はもとより、多様な価値観・背景を持つ様々な人たちとの対話を進め、持続可能でよりよい世界、誰一人取り残されることのない社会、笑顔あふれる未来をめざし、力を合わせ、共に進もう。

以上、ここに宣言する。

2024年4月29日
 第95回メーデー高知県中央大会



いただきたい」と檄を飛ばした。また、政治に関して「自民党の政治資金パーティー裏金事件は、その疑惑の解明、当事者の処分、説明責任など、いずれもが不十分だ。この問題によって政治そのものへの信頼を傷つけた、その責任は極めて大きい。次の国政選挙では、しっかりと私たち国民・有権者の思いを形にしていこう」と呼びかけた。

来賓には、来る総選挙に向けて高知県小選挙区“第1区”から立つ予定の武内のお立憲民主党高知県連代表をはじめ10人の方々に駆けつけていただいた。武内代表は、政治状況に触れながら「皆さんがめざ





す社会、あるべき国を創っていくためには、選挙へ行くことだ。私たちと共に政治の流れを変えよう」と訴えた。

毎回恒例の「お楽しみ抽選会」では、青年・女性委員会が司会進行しながら景品をめぐって場内を沸かせた。

大会の最後には「万国の労働者の命とくらし、雇用、基本的人権を守る”こと、そして“戦争反対”の意をこのメーデーを起点に、社会へ発信していこう」とするメー

デー宣言を採択して、労働者の社会的な願いを発信した。

大会後に行ったデモ行進では、中央公園まで電車通り沿いを通りながら、県民に「すべての労働者の生活を守ろう！」「豊かな生活時間の確保と、あるべき労働時間の徹底を！」「政治のステージ転換を！」「平和と人権が尊重される社会を！」と呼びかけた。

【参加いただいたご来賓の皆さん】

- 井上 浩之 高知県副知事
- 桑名 龍吾 高知市長
- 広田 一 参議院議員
- 武内 則男 立憲民主党高知県総支部連合会 代表
- 久保 耕次郎 社会民主党高知県連合 代表
- 浜田 太蔵 新社会党高知県本部 執行委員長
- 早川 浩由 高知県平和運動センター 議長
- 松木 伸介 ユーアイ・核禁高知 代表幹事
- 吉川 裕三 高知県民社協会 会長
- 池添 健太 高知市地区労働組合協議会 会長



2024 春季生活闘争 経営団体申入れ

一律厳しいが、人材流出懸念

連合高知は3月25日、高知県経営者協会に対して「物価上昇を超える賃上げ」や「労務費をはじめとする価格転嫁が適切にできる社会をめざす」ことなどをはじめとする要請書を手交したうえで、意見交換をおこなった。

連合高知からは「経済の大局的な視点に立ちながら、人手不足と物価高という厳しい経営環境にあっても、人への投資や労務費の適切な価格転嫁が企業利益を増加させるとの認識を持って、地場における賃上げの環境整備を」と申し入れた。

これに対して経営者協会は、賃上げに対して一定の理解は示しつつも、「大手の賃上げムードが地方まで波及するとまでは一概にはいえないのではないか。無理な賃上げは地場企業の存続にも関わり、結果して雇



用の問題になってくるため、一律の対応は厳しい」と応えた。一方で、「価格転嫁力があるとともに円安などで高い利益を得ている大手企業と、原燃材料費等の価格転嫁が厳しい地方の企業との賃金格差が拡大し、働き手の県外流出が進むことを懸念している」と、規模間・地域間格差による人手不足の昂進に対する憂いが語られた。

価格転嫁に関しては「大手企業を軸とするサプライチェーン内は一定進んでいると思うが、それ以外はあまり価格転嫁できていないのではないか。また、消費者と直接売買する会社においては厳しい実態があるのではないか」とした。

その他、意見交換では“賃上げに資する補助金の課題”や“職場環境改善”、“雇用の県外流出問題”、“年収の壁問題”、“地域別最低賃金”などについて話し合った。

2024春季生活闘争の現況

連合は、4月16日時点の第4回集計結果を発表した。それによると「加重平均15,787円・5.20%(昨年同期比4,765円増・1.51ポイント増)」となっている。このうち、賃上げ分(ペア)が明確に分かる組合では、300人以上が11,003円・3.60%、300人未満は、8,674円・3.30%となっており、2023年の物価上昇率(3.10%)を上回る妥結で推移している。また、有期・短時間・契約等労働者の賃上げにおいても、時給・月給ともに引き上げ率が一般組合員を上回る水準を維持している。

県内においても現時点では、およそ5割の組合から報告を受けており、その水準は連合全体の集計結果からすれば規模間・地域間格差が否めない状況ではありながらも、昨年を上回る妥結結果になっている。

【加重平均：9,723円(4.06%)、単純平均9,083円(3.79%)】

【お知らせ～6月男女平等月間の取り組み～】

1. 女性のための全国一斉集中労働相談ホットライン

□テーマ 職場で悩むあなたを応援(サポート)します!

□日時 2024年6月4日(火)～5日(水) ※両日ともに10:00～19:00

2. 2024年男女平等参画推進フォーラム

□日時 2024年6月29日(土) 13:30～15:10

□場所 男女共同参画センター「ソーレ」/オンライン生配信

□講演 その「普通」って、ホントに普通?!～社会にあふれる無意識の思い込み～

□講師 守屋 智敬 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事

□参加費 無料

□申込み 会場参加については、所属の構成組織を通じて手続きを。

Web参加はソーレのサイトから直接申込みを。

3. 連合高知2024男女平等リーダーセミナー

□日時 2024年8月24日(土) 15:00～ □場所 三翠園 □テーマ 調整中

□講師 本田 一成 武庫川女子大学経営学部 教授/クミジョ応援係長

※「クミジョ」とは、労働組合役員、関係団体、組織内議員など含め広く労働界で頑張る女性のこと。

自民党政治に終止符を！

“武内のりお”氏を先頭に

来る第50回衆議院選挙では、連合高知が推薦する「武内のりお」予定候補（第1区）を先頭に、日本の政治を高知から変えていこうではないか。

自民がつくる格差・貧困

いまの日本社会は、深刻な「格差と貧困」にあえいでいるといっても過言ではない。加えてコロナ渦で社会的なセーフティネットの脆弱性が明らかになった。こんな社会を生み出したのは、徹底した市場原理の導入や労働者保護ルールの改悪などによって公助を後退させるとともに、低所得層を増やしてきた自民党政治によるところが大きい。

緊張感のある政治へ

そのうえ自民党はいま、派閥の政治資金パーティー裏金事件で政治不信を招き、社会的にその責任が追及されている。こんな政党が戦後長く日本の政治において権力を振るってきたのだ。これはまさに自民党を一強とする“緊張感をなくした政治状況”といっても過言ではないのではないだろうか。



武内則男の歩み(高知県 第1区予定候補)

1958年9月8日生まれ 高知県幡多郡三原村
高知県立高知工業土木科卒業
1977年4月 高知市役所入職
全水道高知水道労働組合書記長
自治労高知市職員労働組合副執行委員長
NPO高知市民会議理事
高知市秦小学校・愛宕中学校PTA会長
2003年 高知市議会議員
2007年 参議院議員(参議院厚生労働委員会委員長)
2017年 衆議院議員(立憲民主党国会対策委員会委員長代理)
2021年 第49回衆議院議員次点
2023年 連合高知第1回執行委員会(12/18)推薦決定 ※
2024年 連合第4回中央執行委員会(1/25)推薦決定 ※



だからこそ私たち連合高知の意思を結集し、こんな自民党一強政治に終止符を打たなければならない。そのためにも来る総選挙に向けて武内のりお予定候補を先頭に、戦いの陣形をつくりあげながら、政治のステージ転換 - 政権交代をめざしていこう。

武内のりお予定候補に聞きました。

Q. 実現した政策を1つお答えください。

自民党政権下で、凍結された高速道路の新規事業化を実現しました。(芸西西～安芸西道路・安芸道路など)

Q. 今後、実現したい政策を先ずは3点伺います。

1. 平和な日本を子ども、孫たちの未来へ

専守防衛・平和外交を軸に不戦の誓いを守り、日本のみならず、世界の平和に貢献する国をつくりまします。

2. 持続可能な地域を未来へ

自由度を持った地方交付税制度を確立、身近な公共事業を提供し建設業をはじめとした中小・小規模事業者を支援します。

農業、漁業、林業予算を拡充し、従事者の暮らしを守り、公益的機能を発揮しうる地域を作ります。

3. 安心の社会保障制度を未来へ

医療、介護、年金、子育て、障がい者福祉予算を大幅に拡充し、安心の社会保障制度改革を行います。